【 研究ノート・資料 】

# 個別対応による教師養成支援システムの構築を目指して

渡　辺　芳　朗[1]・稲　葉　みどり[2]

[1]愛知教育大学教育学研究科修士課程・[2]愛知教育大学教育学部

**要旨**

本研究では、英語教育に関する実態調査により、中学校の英語教員が抱えている問題点を明らかにした上で、それらの問題に対応するために、「教材研究プログラム」「人間関係構築プログラム」「授業力向上プログラム」の３種類の研修プログラムを作成した。プログラムを参考に、Teacher Trainer である訪問アドバイザーが英語教員の授業を参観し、１人ひとりに応じた教員研修を行った。研修による変容をねらいとして、指導を受けた英語教員に対して、事後調査を行い、個別研修の効果を検証した。それにより、グローバル時代の「個別対応による教師養成支援システム」の構築に取り組んだ。

**キーワード**

英語教育、教員研修、訪問アドバイザー、授業力向上、研修プログラム

## １．はじめに

中学校現場では、2016 年度からの新しい教科書使用に向けて、教科書選定やカリキュラム作成など、慌ただしく準備が進められている。特に、今回の教科書選定は、2020 年度に向けた「グローバル化に対応した新たな英語教育改革実施計画」を見据えたものである。文部科学省は 2016 年度中に新学習指導要領作成、2018 年度より段階的に先行実施、2020 年度より完全実施というスケジュールに則って作業を進めている。公立学校英語教員の研修プログラムとして「英語教育推進リーダー教員等による校内研修」、「初任者研修等における実施の充実」、「研修用映像教材の活用等」を行う予定である。しかし、たとえ公的な研修プログラムが示されても、１人ひとりの英語教員に応じたものではなく、十分に機能できないと推察する。特に、若い英語教員は指導技術・生徒掌握力の不十分な場合が多く、研修を実りあるものとするためには、石田（2001）が述べる Teacher Trainer による、個に応じた、適切な教員研修が重要課題であると思われる。

そこで、現在愛知県内の１つの市で行われている「訪問アドバイザー」を活用し、中学校英語教員のための「個別対応による研修プログラムづくり」に取り組めば、新たな英語教育の実現のための教師養成支援システムを構築できると考えた。

## ２．研究の方法

グローバル時代の教師養成支援システムを構築するために、以下の３つの段階を踏んで研究課題に取り組む。

（1）初任者の英語教員に対して実態調査を行い、英語教員が抱える問題を明らかにする。
（2）Teacher Trainer である訪問アドバイザーが個別対応プログラムを参考に、英語教員１人ひとりに対して、継続的で、問題解決的な個別研修を行う。
（3）訪問アドバイザーを受けた英語教員に対して、事後調査を行い、個別対応研修プログラムの効果を検証する。

## ３．初任者の英語教員に対する実態調査

英語教員研修の問題点を把握するために、英語研修に関する実態調査を 2015 年７月に実施した。対象は愛知県内に勤務する中学校の初任者の英語教員で、４名に調査し、全員から回答を得た。調査項目は以下の 13 項目である。

（1）十分な教材研究をすることができていますか。
（2）指導案を作成して授業をしていますか。
（3）板書計画を作成して授業をしていますか。
（4）意図的指名により授業をしていますか。
（5）めあてを生徒に伝え授業をしていますか。
（6）導入を工夫して授業をしていますか。
（7）生徒の活躍の場を設定することができていますか。
（8）まとめや確認の時間が十分取れるように時間配分をすることができていますか。
（9）英語を用い、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」をバランスよく育成することができ

ていると思いますか。
(10)生徒の心を掴んで授業をすることができていると思いますか。
(11)「授業チェックリスト」などにより、授業反省をすることができていますか。
(12)「振り返りカード」などにより、生徒の感想や意見を授業に反映していますか。
(13)日頃の授業でどんなことに困っていますか。(3つ選択)（定着度の高め方 / 下位生徒の指導 / 生徒の集中度の高め方 / 時間配分の仕方 / 生徒の活躍の場の設定 / 指導案の書き方 / 個と全体の生徒の心の掴み方 / 教材研究の仕方 / 意図的指名板書計画の立案 / 英語による授業 /ALT との T.T のし方 / まとめの仕方 / 評価の仕方 / テスト作成）

回答は、自己評価で満足度・達成度を、5（81～100%）、4(61～80%)、3(41～60%)、2(21～40%)、1(0～20%）の５段階のリカート尺度で選んでもらった。なお、設問（13）は 15 項目から３つを選ぶ選択制とした。

表１は各回答の人数、割合、１－５の平均等の一覧である。割合は平均から換算したものである。平均、割合の数値が大きい項目ほど、達成率が高いと解釈できる。

**【表１：英語教育に関する実態調査内容と結果】**

| 番号 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 総数 | 割合 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 4 | 65.00 | 3.25 |
| (2) | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 4 | 55.00 | 2.75 |
| (3) | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 4 | 60.00 | 3.00 |
| (4) | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 4 | 40.00 | 2.00 |
| (5) | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 4 | 55.00 | 2.75 |
| (6) | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 4 | 65.00 | 3.25 |
| (7) | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 | 35.00 | 1.75 |
| (8) | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 | 25.00 | 1.25 |
| (9) | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 30.00 | 1.50 |
| (10) | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 30.00 | 1.50 |
| (11) | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 4 | 55.00 | 2.75 |
| (12) | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 4 | 50.00 | 2.50 |

調査結果より、1（0～20%）と 2（21～40%）の達成度しかなかった項目は、「(9) 英語を用い、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」をバランスよく育成することができていると思う」と「(10) 生徒の心を掴んで授業をすることができていると思う」であった。しかし、達成度が 1（0～20%）と 2（21～40%）と答えた人数が２名以上ある項目をみると、「(2) 指導案を書いて授業をする」「(5)めあてを生徒に伝え授業をする」、「(7) 生徒の活躍の場を設定する」、「(11) 授業チェックリストなどにより、授業反省をする」、「(12) 振り返りカードなどにより、生徒の声を授業に反映する」であった。

また、項目 13 の「日頃の授業でどんなことに困っていますか」に対しては、全員が「定着度の高め方」「下位生徒の指導」を選択した。そして、「生徒の集中度の高め方（２名）」「教材研究の仕方（１名）」「時間配分の仕方（１名）」が続いた。達成度の低い項目と日々の悩みは連動していて、表裏一体のものであると言える。「指導案を書かずに授業をする」「下位生徒の指導に困っている」「授業反省の機会を持たない」「生徒の声を授業に反映しない」と考えている初任者が多いことが浮かび上がってきた。

### ４．個別対応研修プログラム

実態調査の結果から、「指導案を書かずに授業をする」「下位生徒の指導に困っている」「授業反省の機会を持たない」「生徒の声を授業に反映しない」という課題が見えてきた。それぞれの問題を抱える教員に対して、全体での講義形式による研修からでは、効果を期待できない。個別指導を優先する英語教員研修こそが効果的であると考え、「教材研究プログラム」「人間関係構築プログラム」「授業力向上プログラム」を考案し、実践した。

### ４．１　「教材研究プログラム」

「指導案を書かずに授業をする」ということは、指導すべきことを踏まえ、生徒の活動の場を設定し、書き表すことができないことを意味する。忙しさに忙殺され、どのように英語の授業を進めるかを研究するゆとりがない。そうすると、授業がマンネリ化し、文法重視の授業になっていく。教師の叡智で創造される英語の授業とはほど遠い授業になる。指導案を作成するということは、教材研究の充実を図り、授業を構想する力を向上させることに繋がる。指導案が書けない教員タイプに対して、教材研究の充実を図るために「教材研究プログラム」を考案した。

教科書は特定の教授法にかかわらず、様々な知恵が盛り込まれている。英語教師はそのことを知ることが先決であると考える。「教材研究プログラム」では、Teacher Trainer である訪問アドバイザーが授業者との教材研究により教科書の趣旨や意図を指導する。授業者が授業を進める上で、「読むこと」「書くこと」の活動を含めて４技能をバランスよく育成することと、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育てることを目標にすることは必須である。授業には、①基礎・基本を重視する英語授業（基礎・基本タイプ）②小学校英語活動との連携を重視する英語授業（小中連携タイプ）③コミュニケーション能力を育てる授業（コミュニケーションタイプ）という３つの授業のタイプがあることを示した。以下、３つのタイプの特徴についてアドバイスしてきたことを述べる。

#### ①基礎・基本タイプ

１人ひとりの生徒を英語の授業に真剣に取り組ませる

ために、人の話をしっかり聞かせるとともに、学習マナーやルールの徹底を図る。それとともに、１時間の流れの中で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の４技能がバランスよく構成された授業展開を図る。その視点を忘れず、生徒の興味・関心を惹きつけるために導入・展開・まとめを工夫するとともに、ペアワークやグループワークを取り入れることにより、生徒の活動の場を保障することが重要である。

**②小中連携タイプ**

中学校で学習する内容の中には、小学校で音声面を中心とした指導ですでに学習しているものが多い。中学校の英語教員は小学校での英語活動で学習してきたことを把握する必要がある。「Hi、friends」のデジタル教材を活用したり、資料を実物投影機で写したりして、導入時に関心・意欲を高める。また、文字として書いたり、文法を構造的に理解したりすることにより、定着度を高めて「わかった」と感じることができるようにする。小学校での既習をいかに想起させるかが重要である。

**③コミュニケーションタイプ**

コミュニケーション活動の場を設定することで、コミュニケーション能力を養う。生徒の興味・関心を喚起するために、導入時に具体的な場面設定を行うとともに英語での意思疎通を進んでさせるために、ペアワークやグループ活動の工夫をすることが大切である。ただし、コミュニケーション活動という形式に流されず、個々の生徒の反応をどう把握し、支援するかという指導力こそが重要であることをアドバイスした。

以上のことを踏まえ、授業者がどのようなタイプの授業をするか、生徒が学ぶ学習内容や言語活動をどのように構成するか。さらに、どのように生徒を活躍させるかを考えるようにアドバイスした。50 分という時間の中で、効率よく授業を構成する時間配分も考えなければならない。その際、授業のめあて、導入の仕方、英語力の定着と生徒の活躍の場の設定、まとめ方を考える。このように指導した後、授業者が授業案を作成し、授業に取り組もうとする意識が見られるようになった。

### ４．２　「人間関係構築プログラム」

「下位生徒の指導に困っている」という英語教員が多いということは、生徒の気持ちを推し量り、授業を「分かりやすく」進めることができないことを意味する。生徒中心の授業とよく言われるが、生徒１人ひとりが「分かった」「できた」と言える授業展開でなければ、授業は成立しない。生徒の反応を重視し、学習内容を理解させ、活動に参加させる授業展開ができない英語教員は、生徒との良好な信頼関係を構築できるとは思えない。生徒と良好な人間関係を築き、生徒の積極性を伸長することが必要と考える。下位生徒の心を掴めない教員タイプに対して生徒との良好な人間関係の構築を図るために「人間関係構築プログラム」を考案した。

このプログラムは授業者が行う授業を Teacher Trainer が定期的に観察し、授業記録を取った上で、授業反省を行う方法である。八田（2000）の「専門教科の深い知識」と「実践的な経験知」と「授業に対する絶えざる反省（リフレクション）」によるものである。

授業記録は「教師の発問・支援」・「生徒の様子＆コメント」からなり、教師の発問・支援や生徒の様子から、Teacher Trainer がコメントをするのである。表２は、１年生の６月中旬の授業記録であり、生徒の心を掴もうと授業者が授業改善に取り組み始めた時の授業観察記録である。

**【表２：授業記録】**

| 時間 | 教師の発問・支援 | 生徒の様子＆コメント |
|---|---|---|
| 0 | ・あいさつ<br>・小テスト | ・生徒は落ち着いています。 |
| 8 | ・音声トレーニング（ペアでペラペラ） | ・コミュニケーション能力の基礎を培うことができます。 |
| 10 | ・英語授業振り返りカードに成果の記入。<br>・課題や発表活動についての指導。 | ・生徒は元気よく取り組んでいます。<br>・提出していない生徒に具体的な指示が必要。 |
| 15 | ・めあての確認。<br>・デジタル教科書を活用して，“Let’s study English.” | ・導入の工夫をしましょう。<br>・１学期に比べ，声量が大きくなりました。 |
| 18 | ・“What do you use?”<br>・デジタルで文型練習。（起立） | ・生徒が意欲的に取り組めるような効果的な活動を考えたいですね。 |
| 20 | ・基本文の確認（授業プリント使用）・生徒は静かに板書事項を書いていました。 | ・１年生は育っています。 |
| 30 | ・本文の内容理解（Q を与え，Listening）<br>Q1　さくらはケンに何を提案した？ | ・Q を与え，答えを聞き取らせる活動は，生徒に課題意識を持たせますね。 |
| 35 | ・新出語句（FC）。声が大きくなりました。<br>英読み⇒日→英 | ・個別指導が充実しています。 |
| 40 | ・単語書き「（すぐに取り掛かった姿を見て）すばらしい。覚えてくれていたんだね」 | ・褒めることは効果があると思います。 |
| 45 | ・「見るか見ないかで勉強にし方が変わるんだよ」<br>・自己採点<br>・（Q1 の答えを確認して）本文を聞く。<br>・本文の読み。「○○君，素晴らしい」 | ・自学自習の態度を育てようとされています。<br>・この時の問いかけが自然でとても良かったです。<br>・全問正解は 1/3.「素晴らしい」<br>・本時のめあてを達成することができました。 |
| 50 | ・まとめ | |

授業観察を良い点を見つけ褒めるとともに、授業改善のための方法、今後も継続すべき良い点についてアドバイスをした。例えば、学級の雰囲気に対して、「落ち着いています」「1 学期に比べ、声量が大きくなりました」「1 年生は育っています。」良かった点に対しては、「個別指導が充実しています」「この時の問いかけが自然でとても良かったです」、改善点に対しては、「導入の工夫はあまり感じられません。」「生徒が意欲的に取り組めるような効果的な活動を考えたいですね。」などとアドバイスをした。次につなげるために、「問題意識と問題解決力を育てます」「本時のめあてを達成することができました」などのアドバイスをした。研修を受ける教員にとって、指導技術の向上を認めてもらえる場を持つことは有効であると考える。

また、表３の「タイプ別指導」のように、「生徒との信頼関係をうまく築くことができないタイプ」には、生徒のすばらしい力を知ることと毅然とした態度をとることの大切さをアドバイスした。「生徒を授業に参加させることができないタイプ」には、生徒をよく観察し、個に応じた声かけが大切であることをアドバイスした。「生徒に対して指導できないタイプ」には、注意の仕方や対応の仕方もアドバイスをした。

**【表３：タイプ別指導】**

| | 指導内容 |
|---|---|
| 生徒との信頼関係をうまく築くことができないタイプ | 英語学習を支えるのは，生徒との信頼関係です。生徒がすばらしい力を持っていることを知り，活かしたいです。また，生徒には毅然とした態度をとることも必要です。到達目標は何にするのか，生徒をどのように活躍させるかを考えてください。 |
| 生徒を授業に参加させることができないタイプ | 生徒全員をいかに参加させるかが課題であると思われます。生徒をよく観察し，個に応じた声かけが大切だと思います。生徒の顔を浮かべながら教材研究をし，授業反省をする。それにより，生徒の心を掴んでいきたいです。 |
| 生徒に対して指導できないタイプ | 眠たそうな生徒に何をさせるかを考えて授業に臨みたいですね。それとともに，全体での練習だけでなく，個として音声トレーニングやペア読みで声を出して言わせ，発表させる。生徒ができるようになったという満足感や充実感を味わわせたいです。 |

## ４．３　「授業力向上プログラム」

「授業反省の機会を持たない」や「生徒の声を授業に反映しない」ということは、教師力や授業力の向上を図ることができないことを意味する。教師の内省なくして、授業改善はありえない。ましてや、生徒が満足する授業を行うことはできないと考える。生徒の意見やアイデアを取り入れ、生徒の目線で授業を反省することは、授業改善にも効果的であると思われる。また、「自分たちの意見やアイデアを授業に活かせてもらった」という意識は、生徒の英語授業への参加意欲を高めることにもなる。さらには、教師と生徒が一体感をもって授業を創造することにも繋がる。「授業チェックリストを活用して、授業反省をすることができていますか」や「振り返りカードなどにより、生徒の声を授業に反省していますか」に対して達成度が低いと答えた英語教員に対して、教員自らが授業力を内省するとともに、生徒の振り返りを活用して授業改善を図ることができる『授業力向上プログラム』を考案した。

授業反省の後で、英語教師自身が行う「授業をするための Can Do List」を用い、日頃の授業をチェックする機会を設けた。リストは表４に示した 20 項目からなっている。授業者が 1 項目 5 点満点で 100 点満点に点数化をした。

5 点　達成度 81～100%　　4 点達成度 61～80%
3 点　達成度 41～60%　　2 点達成度 21～40%
1 点　達成度 0～20%

点数化したものは、Teacher Trainer と妥当であるかどうかを話し合った。このリストで授業を振り返る際、授業者の評価を尊重し、過重負担にならないように留意した。

**【表４：授業をするためのCan Do List】**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 教材研究 | 十分な教材研究をすることができていますか。 |
| 2 | 板書計画・指導案 | 板書計画や指導案を作成することができていますか。 |
| 3 | めあての提示 | 生徒に分かるように，英語での導入やめあての提示をすることができていますか。 |
| 4 | 表情・視線 | 笑顔で全員の生徒に視線を向けることができていますか。 |
| 5 | 声量 | 明瞭で聞き取りやすい声の大きさで話すことができていますか。 |
| 6 | 立ち位置 | 全員から見える場所に立ち，発問や指示ができていますか。 |
| 7 | リズムとテンポ | リズムとテンポを良くして，生徒の集中力を高めることができていますか。 |
| 8 | 意図的指名 | 授業への参加意欲を引き出す指名をすることができていますか。 |
| 9 | 発問・指示 | 明確で分かりやすく発問や指示をすることができていますか。 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 板書 | ていねいな字で板書することができていますか。授業の流れが分かる構造的な板書をすることができていますか。 |
| 11 | 机間指導 | 机間指導で全員に○つけをすることができていますか。支援が必要な生徒に声をかけることができていますか。 |
| 12 | 書写姿勢や聞く姿勢の指導 | 書写姿勢や聞く姿勢の指導をすることができていますか。 |
| 13 | ノート指導 | ていねいに書くように指導することができていますか。定期的にノートをみて，朱書きをすることができていますか。 |
| 14 | ワークシートの活用 | 活動の目的がはっきりしており，生徒が取り組みたくなるようなワークシートを作成することができていますか。 |
| 15 | 活動形態の工夫 | ペアやグループなど生徒の活躍の場を設定することができていますか。 |
| 16 | コミュニケーション能力の育成 | 英語を用い，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」をバランスよく育成することができていますか。 |
| 17 | ICT機器の活用 | ICT機器の活用することができていますか。 |
| 18 | 定着の手立てと認める場の設定 | 学んだことを定着させるために手立てを考え，取り組んでいますか。1時間に3人は褒めることができていますか。 |
| 19 | 時間配分 | まとめや確認の時間が十分取れるように時間配分をすることができていますか。 |
| 20 | まとめの時間の確保 | 授業の終わりに「まとめ」の時間を設定し，学習内容が定着したか確認できていますか。 |

研修を受ける英語教員が最初に行った自己評価の点数が予想以上に良くなく、2回目からは頑張ろうと決意し、向上する姿が見られるようになった。また、生徒の振り返りを活用して授業改善を図るために、生徒による「学習振り返りシート」（表5）を考案した。

**【表５：学習振り返りシート】**

| 日付 | | チェック | 授業に対する感想メモ | |
|---|---|---|---|---|
| / | U（ ） | A B C D | | |
| / | U（ ） | A B C D | | |
| / | U（ ） | A B C D | | |
| / | U（ ） | A B C D | | |
| 本読み | （ ）回　　秒 | 点 | 先生より | |
| | （ ）回　　秒 | 点 | | |
| | （ ）回　　秒 | 点 | | |
| | （ ）回　　秒 | 点 | | |

授業の終わりの2分で、授業で良かったことや分かったことを振り返り「学習振り返りシート」に記入させた。これを見ると、気づきや発見をする生徒もでてきたことが分かった。生徒の気づきや発見を授業に活かすことは、生徒の側に立った授業を進める上で不可欠である。生徒の意見やアイデアを取り入れ、生徒の目線で授業を反省することは、授業改善にも効果的である。また、「自分たちの意見やアイデアを授業に活かせた」という意識は、生徒の英語授業への参加意欲を高めることにもなる。生徒の感想メモには次の（1.1）ように記されていた。

（1.1）先生、今日の授業分かりやすくて良かったよ。今日のゲーム楽しかったよ。これからもおねがい。先生いつも私たちのためにありがとう。先生のおかげで英語が好きになりました。

このような言葉が指導者にやる気をおこさせ、生徒と一体感をもって授業を創造することに繋がる。自己満足に陥りがちな英語教員自らが授業力を内省し、生徒の振り返りを活用して授業力を高めることができる。

## ５．調査結果とまとめ

2013年度から現在まで訪問アドバイザーの研修を受けた英語教員20名（教職経験2年～5年程度）を対象に、2015年9月に英語研修に関する調査を行った。満足度・達成度を先の調査と同じ尺度で回答してもらった。以下が調査項目である。

（1）あなたは訪問アドバイザー研修を受けて良かったですか。
（2）あなたは教材研究をする力が向上したと思いますか。
（3）あなたは授業づくりの力が向上したと思いますか。
（4）あなたは生徒との良好な人間関係を築ける力が向上したと思いますか。
（5）あなたは授業実践力が向上したと思いますか。
（6）あなたにとって実践にはまだ時間がかかることは何ですか（3つ選択）（下位生徒の指導 / 定着度の高め方 / 英語による授業 / 指導案の書き方 / 教材研究の仕方 / 生徒の活躍の場の設定 / 個と全体の生徒の心の掴み方 / ALTとのT.Tのし方 / まとめの仕方 / 時間配分の仕方 / テスト作成 / 生徒の集中度の高め方 / 意図的指名 / 板書計画の立案 / 評価の仕方）

**【表６：英語研修に関する調査結果】**

| 番号 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 総数 | 割合 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 18 | 2 | 0 | 0 | 0 | 20 | 90.00 | 4.50 |
| (2) | 5 | 8 | 5 | 2 | 0 | 20 | 44.00 | 2.20 |
| (3) | 7 | 7 | 5 | 1 | 0 | 20 | 52.00 | 2.60 |
| (4) | 7 | 6 | 7 | 0 | 0 | 20 | 56.00 | 2.80 |
| (5) | 8 | 7 | 5 | 0 | 0 | 20 | 55.00 | 2.75 |

「訪問アドバイザー研修を受けて良かった」に対して、

18名が満足度81～100%､2名が61～80%と答えている。満足度・達成度81～100%と61～80%と合わせた数字が多いのは「授業づくりの向上」（14名)、「人間関係づくりの向上」（13名)、「授業実践力の向上」（15名）である。このことから訪問アドバーザーを受けた多くの英語教師が生徒と良好な人間関係を築き、授業づくり・授業実践に対する成果を得ることを切に願っているように思われる。しかし､「教材研究をする力の向上」に対しては、21～40%と答えている教員が2名おり、引き続き指導をしていく必要がある。

設問6に対する回答を見ると、多く選ばれたものは、「下位生徒の指導（19名)」「定着度の高め方（15名)」「英語による授業（8名)」「指導案の書き方（6名)」である。12名が選んだものは、「教材研究の仕方」「生徒の活躍の場の設定」「個と全体の生徒の心の掴み方」「ALTとのT.Tのし方」「まとめの仕方」「時間配分の仕方」「テスト作成」である。選ばれなかったものは、「生徒の集中度の高め方」「意図的指名」「板書計画の立案」「評価の仕方」である。この結果から分かるように、「下位生徒の指導」「英語による授業」「定着度の高め方」「指導案の書き方」に対しては、実践にはまだ時間がかかると考えている。そういった課題の解決のためにも、個に応じた英語研修をさらに充実していく必要があると考える。訪問アドバイザー研修に対して（1.2）（1.3）のような感想を書いてくれた英語教員がいた。

（1.2）自分では気づけない部分を指摘していただけること・授業の悩みを聞いて頂けて、成長することができました。まだまだ成長していかなければならないことがたくさんありますが、自分の欠点を見つめなおすことができました。（教職経験4年目･訪問研修3回）

（1.3）訪問アドバイザーにおいて、授業のご指導を頂けるので、すぐに意識をして直していけるのでとても実践的だと思います。授業内容だけでなく、生徒指導面においてもご指導いただけることが非常に勉強になります。訪問の回数をもっと増やしていただけると嬉しいです。（教職経験2年目・訪問研修3回）

これらは訪問アドバイザー研修の意義を端的に説明した文章であり、訪問回数をもっと増やしてほしいという願いが表現されている。また、もう1人の感想は、英語教員が自らの成長を知り、さらなる高みを願っている言葉である。我々訪問アドバイザーにやる気を与えてくれる。それは、英語教員が生徒の感想から意欲を喚起されると同じような価値があると思われる。

石田（2000）が述べるように、英語教員として教壇に立った初年度から数年間の「模索期」にある、若い英語教員が抱える問題は多様で、時には深刻である。このことは本研究でも明らかにされた。「訪問アドバイザー研修を受けて良かった」に対して、満足度・達成度81～100%が9割、61～80%が1割と答えているように、若い英語教員に対しては、全体での研修だけでは効果的ではなく、「還元期」にある“Teacher Trainer”の援助を受けて、「よい授業」を作る実践研究を重ねて行く必要があることも本研究で分かってきた。八田（2000）が述べているように、「専門教科の深い知識」と「実践的な経験知」と「授業に対する絶えざる反省（リフレクション)」によって英語の授業力は、培われていく。若い教員を育てることには時間がかかる。「教材研究をする力が向上したと思いますか」に対して、満足度・達成度21～40%と答えた2名や「授業づくりの力が向上したと思いますか」に対して、満足度・達成度21～40%と答えた1名を含め、それぞれの質問に対して、満足度・達成度が60%に達していない英語教員のために、個に応じた、系統的な研修プログラムづくりをさらに継続していくことが必要であることが分かった。

## 6．おわりに

今､教育界は､激しい変化に晒されており､「学力向上」「生徒指導」だけでなく､「生き方指導」「いじめ対応」など、様々な問題を抱えている。また、価値観の多様化の中での保護者対応などに疲れ切っている教師は多い。そんな中で、来年度から新しい教科書が使用される。2016年度版New Horizonでは、「グローバル化に対応し、世界に発信できる日本人」を目指し、習得・活用・発信の3部構成でアクテイブ･ラーニングに対応するとしている。さらに、異文化理解・小中連携にも対応しているようである。このような変革期にあり、新しい教科書に対応するために教師の教材研究や教師力・授業力の向上がさらに求められることになる。現場の教員の日々の実践には、今後、新しい教科書の趣旨を理解するとともに、新しい授業づくりを構築すること、幅広い実態調査を実施することにより、問題点を把握し、問題解決を図りながら課題を解決していくことが必要である。英語教員がこれらの課題に真摯に取り組み、次代を生きる生徒の育成に取り組めるように、グローバル時代に生きる英語教員の教師力や授業力の向上に貢献していきたい。

## 謝　辞

この研究を論文として形にすることが出来たのは、熱心に指導して頂いた先生方や、アンケート調査に協力していただいた先生方のおかげです。 協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げ謝辞とさせていただきます。

**参考文献**

石田雅近（2001）.『現職英語教員の教育研修の実態と将来像に関する総合的研究』文部科学省.
佐藤学（2000）.『教育改革をデザインする』岩波書店.
八田玄二（2000）.『レフレクティブ・アプローチによる英語教師の養成』金星堂.

【連絡先　渡辺　芳朗
E-mail: yoshi55@xj.comufa.jp
稲葉みどり
E-mail: mdinaba@auecc.aichi-edu.ac.jp】

# Building a Teacher Education Support System Based on Individual Response

Yoshiro Watanabe[1] and Midori Inaba[2]
[1]*Aichi University of Education graduate school pedagogy postgraduate course Master's course*
[2]*Faculty of Education, Aichi University of Education*

Abstract

The purpose of the present study it to develop a teacher-education support system based on individual response via the following procedures. The issues that junior high school English teachers grapple with were first brought to light by a survey about the conditions of English education. Second, to correspond to these problems, three types of training programs were created: "instructional materials research", "building human relations" and "towards a better class." Third, a visiting adviser referred to as the "teacher trainer" visited the class of the English instructors and conducted one-on-one service training by making reference to the programs above.

Fourth, post-training questionnaires were given to the English teachers who had received instruction, to investigate the effects of their individual training. The aim was to determine if or how much the teachers had been affected by the training. The implications of these implementations will be used for constructing a more effective teacher education support system which is based on individual response.

Keywords

English education, teacher education, teacher trainer, teacher education support system